

研修テーマ 国語科「単元を貫く言語活動を位置づけた授業作り」について
開催日時 平成28年8月1日(月) 9:00~12:00
実施場所 大山町立名和小学校
指導・助言者 鳥取大学 地域学部 小笠原 拓 准教授

1 研修の実際

① 講義 「授業づくりを楽しむ」

(国語科における単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり)

まず、単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくりを小笠原先生と共に研究されてきた二部小学校の田中信子先生の実践発表に対する指導助言を受けた。次に、実践発表を踏まえた上で、①授業づくり(授業者にとって楽しいことか、学習者に伝えたいメッセージがあるか、いろいろな「形」にこだわりすぎているか)、②授業づくりを楽しむ「環境」(探究的であるか、学校全体で取り組むことができるか)③もう少し広い課題(学習内容を探すことの意味、「良い社会」を作るために)について講義をしていただいた。最後に、子どもたちの実態を踏まえた上で意欲を高めるための学習活動やそのための教材選びについて具体的なお話をしていただいた。

② 演習 教材研究…2学期の物語教材の単元づくり(低・中・高学年グループで協議)

・学級の実態とつきたい言語能力を照らし合わせ、ねらい達成に向けたより効果的な言語活動と学習活動の流れを意識した単元構成をどのように仕組むかを話し合った。話し合う中で、小笠原先生に適宜指導・助言を受けた。

○低学年1グループ(1年生:中核教材「サラダでげんき」)

・単元名を「ぼくたち・わたしたちの『サラダでげんき』をつくろう」とし、「行動を表す大事な言葉を押さえながら読む。」「人物の行動に着目し、様子を想像しながら読むことができる。」「自分だったらどうするかを自分の言葉で伝えることができる。」という単元目標のもと、単元の流れを以下のように考えた。①出てくる動物やサラダに入れるものを自分たちで考え、オリジナルの「サラダでげんき」をつくるという学習課題を知る。②「サラダでげんき」を読み、出てきた順に何を言って何をしたのかを読み取る。③もし自分が登場人物の一人だったら何を入れたか、自分が登場させたい動物をどのように登場させるのか考えてペアで交流する。④グループを作って、出てくる順番や登場の仕方を話し合う。⑤パネルシアターで発表し紹介し合う。

○低学年2グループ(1年生:中核教材「かいがら」)

・単元名を「お話大すきボックスをつくろう」とし、「人物の行動や会話を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる。」(Cウ)、「物語の好きなところを交流することができる。」(Cオ)という単元目標のもと、単元の流れを以下のように考えた。①「かいがら」を読んで、登場人物の紹介やお話の中で好きなところを書いてボックスに入れていく。②好きなところが同じだった子ども同士で話し合いをして読みを深めていく。③並行読書をしていた本でも同じようにボックスを作る。(並行読書の本はテーマを絞ったものを選んでおく。)

○低学年3グループ(2年生:中核教材「名前を見てちょうだい」)

・単元名を「学習発表会でげきをしよう」とし、「場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら、読んでいく。」(Cウ)、「場面の様子がよく分かるように人物の行動や会話のつながりを考えて物語を書いている。」(Bウ)という単元目標のもと、単元の流れを以下のように考えた。①子どもたちがよく知っているお話の続きを作って演じてみせることで、子どもたちに活動のゴールイメージを持たせる。②つながりを持たせて物語の続きを作る。③登場人物らしさが表れるような話し方や

動作の練習をする。④劇の練習の様子をビデオにとって見て、さらによい劇になるようにグループで話し合う。

○中学年1グループ（3年生：中核教材「はりねずみと金貨」）

- ・ 単元名を「いろいろな国や地域の物語を読んで『世界のお話ウィンドウ』で紹介しよう」とし、「場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。」「世界の物語に関心を持ち、意欲的に『世界のお話ウィンドウ』を作って紹介しようとしている。」「起きた出来事を確認、物語のあらすじをまとめる。」という単元目標のもと、単元の流れを以下のように考えた。①教師自らが作った「世界のお話ウィンドウ」を提示し、学習の見通しを持たせる。②教材文を読み（読みの視点を変えて何度も読む）、起きた出来事を確認、物語のあらすじをまとめる。③並行読書を行いながら、「世界のお話ウィンドウ」を作って紹介する。

○中学年2グループ（3年生：中核教材「サーカスのライオン」）

- ・ 単元名を「おすすめの本の紹介カードをつくろう」とし、「中心となる人物の気持ちの変化を読み、感想を伝え合う。」「自分の感想や伝えたいところとその理由を書く。」「一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。」という単元目標のもと、単元の流れを以下のように考えた。①「サーカスのライオン」を読んだ後、「勇気」がテーマとなっている本の紹介カードを示す。②「サーカスのライオン」を読み進め、自分が心に残ったところを紹介しあう。その間、「勇気」がテーマの本の並行読書を進めておく。③「サーカスのライオン」で紹介カードを作る。④自分が選んだ本で紹介カードを作る。

○高学年グループ（5年生：中核教材「注文の多い料理店」）

- ・ 単元名を「宮沢賢治のちょっとためになる作品を推せんしよう」とし、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。」「同じ作者の他作品を進んで読もうとする。」「作品の特徴を広く捉えることができる。」という単元目標のもと、単元の流れを以下のように考えた。①推薦の仕方を知り、単元の学習計画を立てる。②読書の部屋を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について知る。③「注文の多い料理店」を読み、物語の構成や表現の工夫をつかむ。④自分が選んだ作品について他作品と比較して推薦シートにまとめる。⑤推薦文を書いて発表し合う。

2 成果

講義や演習を通して、国語科における単元を貫く言語活動を位置づけた単元づくりについての理解が深まり、そのための授業づくりをイメージすることができた。グループ協議で、国語科の授業づくりについての考え方を共有し情報交換し合うことで、魅力ある単元構想を練ることができた。また、児童の実態からつけたい言語能力を考え、ゴールを意識した単元の構成や学習材の活用の仕方などについての的確な助言をしていただき、2学期からの授業実践に期待が膨らんだ。

～研修後の感想より～

- ・ 教師がモデル（手本）を作り、示すことが大切だと思うので、教師自身が楽しみながらできるといいなと感じる。教師が遊び心を持って新鮮な気持ちで取り組むことが楽しい授業につながると思う。教材研究にゆとりを持って取り組みたい。
- ・ 自分が楽しい授業づくりができていたのか振り返ることができた。今まで型に入るような授業しかできなかったのではと反省するばかりだ。今回の研修を参考に目の前の子どもたちに合った目標を持って毎時間の授業をしていきたいと思う。
- ・ 授業のアイデアをいろいろと話し合うと、自分では気付かないアイデアを知ることができた。授業内容もちろん大切だが、子どもたちにどんな力をつけたいのか目標をしっかりと考えた上で、国語を実践していきたいと思う。